I Kings 3:1-28, 4:1-34

3章、4章

テーマ:知恵を求めたソロモンの祈りと神さまの答え。

この章では、神さまがソロモンに夢で現れ、
「あなたに何を与えようか。願え」
と言われます。ソロモンはイスラエルを治めるための知恵を願います。彼の無欲な願いによってとても喜ばれた神さまは、彼が願ったもの以上に多くのものを彼に約束されます。知恵に加えて、神さまはソロモンに富とほまれとを与えられます。ソロモンの、ひとりの子どもを自分のものだと主張するふたりの母親たちの訴訟での決断は、神さまが本当に彼に賢く、思慮のある心を与えられたことを示すものです。

(Ⅰ列王記3:1－2)「ソロモンはエジプトの王パロと互いに縁を結び、パロの娘をめとって、彼女をダビデの町に連れて来、自分の家と【主】の宮、および、エルサレムの回りの城壁を建て終わるまで、そこにおらせた。当時はまだ、【主】の名のための宮が建てられていなかったので、民はただ、高き所でいけにえをささげていた。」

王になってまずソロモンがしたことのひとつは、エジプトの王であるパロの娘をめとったことでした。彼の結婚で、エジプトとの同盟が結ばれました。ソロモンの、異教徒の女性たちとの結婚はとんでもない間違いで、ついには彼を破滅させます。ソロモンは女性たちの宮廷で育てられたことを思い出してください。ソロモンは彼の父ダビデの人生にはなじみがありませんでした。ソロモンには、生涯、ダビデが持っていたような霊的な収容力も、また神さまに対する切望もなかったのではないかと私は信じています。でも、ソロモンは自分の欠点を知っていました。彼はパロの娘と結婚したあと、(あとではなく、結婚する前に彼がそうすればよかったのにと思いますが、)主のところに行って、知恵を願います。

ダビデの統治のあと、ゆるんだ時期がありました。人々は高き所でいけにえをささげ始めました。このことは実際に、異教の礼拝でした。それは偶像礼拝への後戻りだったのです。

ソロモンのいけにえと知恵を求める祈り

(Ⅰ列王記3:3－4)「ソロモンは【主】を愛し、父ダビデのおきてに歩んでいたが、ただし、彼は高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。王はいけにえをささげるためにギブオンへ行った。そこは最も重要な高き所であったからである。ソロモンはそこの祭壇の上に一千頭の全焼のいけにえをささげた。」

ソロモンは、異教の祭壇にいけにえを自ら進んでささげていました。ダビデなら、絶対にしなかったことです。ソロモンは主を愛してはいましたが、彼はダビデのような人物ではありませんでした。ソロモンはダビデの地位にありましたが、彼には、私たちがすでに見たように彼を二級品にする、あの小さな傷があったのです。

(Ⅰ列王記3:5)「その夜、ギブオンで【主】は夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。『あなたに何を与えようか。願え。』」

主は夜、ソロモンの夢のうちに現れました。繰り返して言いますが、神さまは今日、人の夢の中に現われることはなさいません。もしあなたが夢を見ても、主が自分に現れたと言おうとしないでください。ただ、夕食に何を食べたかを思い出してください。そうすれば、何で夢を見たのだか、分かります。(訳注:アメリカには一般的に、何か悪いものを食べて胸焼けなどを起こしたりすると悪い夢を見る、という考えがあるようです。)神さまは今日、ご自分のみことばによって私たちに語られます。ソロモンは彼の時代に神さまのすべてのみことばを持ってはいなかったので、神さまは彼の夢に現れて言われたのです。
「欲しいものを言いなさい。あなたにそれをあげよう。」
ソロモンは、何を願うのでしょう？彼は何でも欲しいものを願うことが出来ます。神さまがご自身の知恵を与えられる前に彼が賢い選択をしたことは、彼がそれなりの人間の知恵をもっていたことを意味します。

主がソロモンに、何でもかなえてあげようと言われたとき、神さまはソロモンに多くの不足があって、まったく不十分な者であると言うことを認めておられたのだと思います。でも、だれか(国を治めるというような)ことに十分な人がいるでしょうか？クリスチャン・ライフを生きるのに十分な人がいるでしょうか？ だれもいま

せん。事実、私たちはクリスチャン・ライフを生きることはできません。そして神さまは一度も私たちにそうせよと言われたことはありません。神さまは、“ご自分が”私たちを通して生きることを願われたのです。今、神さまはソロモンを通して、何かをしたいと願っておられます。この王は、富や力を願うこともできました。その代わりに、自分の不足を認めた彼が何を願ったか、見てください。

（Ⅰ列王記3：6）「ソロモンは言った。『あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。それは、彼が誠実と正義と真心とをもって、あなたの御前を歩んだからです。あなたは、この大いなる恵みを彼のために取っておき、きょう、その王座に着く子を彼にお与えになりました。』」
ソロモンは、ただダビデの立場に立つ（to fill the shoes）だけではなく、ダビデの王座に座ろうとしているのです。彼は自分が全くその仕事に不十分であることを認めました。

（Ⅰ 列王記3：7－8）「『わが神、【主】よ。今、あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべを王とされました。しかし、私は小さい子どもで、出入りするすべを知りません。そのうえ、しもべは、あなたの選んだあなたの民の中におります。しかも、彼らはあまりにも多くて、数えることも調べることもできないほど、おびただしい民です。』」
彼は経験において自分は「小さい子ども」であると考えています。彼はこの大きな国を治めることはできないと感じています。今日、自分の足りなさを認めることのない、あまりにも多くの人たちが、神さまに仕えようとしています。私たちすべては、神さまに仕えるのにまったく足りない者なのです。私たちは、神さまに助けていただくために、その事実を認めなければなりません。

（Ⅰ列王記3：9）「『善悪を判断してあなたの民をさばくために聞き分ける心をしもべに与えてください。さもなければ、だれに、このおびただしいあなたの民をさばくことができるでしょうか。』」
ソロモンは、善悪を判断して神さまの民をさばくために、聞き分ける心を願いました。このことをちょっと考えて見たいと思います。私たちはいつも、ソロモンは知恵を祈り求めたと言います。それは確かに本当ですが、彼はどのような種類の知恵を祈り求めたのでしょう？彼は政治的な知恵を祈り求めました。彼は政治家になる能力が欲しかったのです。彼は、どのようにしてこの民をさばき、治め、そして偉大な国家的決断をすることができるか知りたかったのです。彼は霊的な識別力を祈り求めることはしませんでした。そのことははっきりさせておく必要があります。ソロモンが書いた本、箴言と伝道者の書には、この世で私たちを導いてくれる知恵が書かれています。箴言は、独り立ちしようとしている若者に与えるのに良い本です。雅歌の中には、彼の霊的な識別力が示されてはいますが、年老いてからは彼の異教徒の妻たちが、彼の心を主から離れさせました。ソロモンは霊的な識別力を祈り求めませんでした。ソロモンは政治的な知恵を祈り求め、神さまは彼の生涯を通して、その知恵を与えられました。

ソロモンの祈りが答えられる

（Ⅰ列王記3：10－11）「この願い事は主の御心にかなった。ソロモンがこのことを願ったからである。神は彼に仰せられた。『あなたがこのことを求め、自分のために長寿を求めず、自分のために富を求めず、あなたの敵のいのちをも求めず、むしろ、自分のために正しい訴えを聞き分ける判断力を求めたので、』」
ソロモンは賢い決断をしたかったのです。今日、すべての政府の不愉快な場面で、地位を得ようとわいわい騒ぐ一連の男たちを見かけます。彼らは、役職に当選したいのです。彼らすべてが、どれほど自分が偉大であるか、自分がどんなにすばらしい能力を持っているかを語ります。彼らは、自分は確かに問題を解決することができる、と私たちに請け合うのです。でも今では、私たちのうちの幾人かは、あの男たちはただ私たちをからかっていたのだ、という結論に達しています。彼らは、解決も知恵も持ってはいません。幾人かでも、
「私には知恵はありません。自分の不十分さを認めます。ただ私は神さまが私を導いてくださるように神さまに頼ります」
と言う人が登場したらよいのに、と思います。そのようなことは、あまりにもびっくりするようなことなので、きっと世界を揺り動かすことでしょう。ソロモンはそのようなことを言ったのです。そして神さまはそのことで彼を賞賛されました。これは大きな一歩でした。

（Ⅰ列王記3：12）「『今、わたしはあなたの言ったとおりにする。見よ。わたしはあなたに知恵の心と判断する心とを与える。あなたの先に、あなたのような者はなかった。また、あなたのあとに、あなたのような者も起こらない。』」
ソロモンは、賢い統治者として抜きん出るようになります。箴言と伝道者の書を読むとき、人間の知恵の最高峰をそこに見るでしょう。これらが、神さまに霊感を受けていないと言っているのではありません。神さまがソロモンを通して人間の最高の知恵を与えておられるのは明らかです。そして神さまは両方の本の中で、人間の知恵だけでは、人生の問題に直面するにはまったく不十分であることをも明らかにしておられます。

（Ⅰ列王記3：13－14）「『そのうえ、あなたの願わなかったもの、富と誉れとをあなたに与える。あなたの生きているかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者はひとりもないであろう。また、あなたの父ダビデが歩んだように、あなたもわたしのおきてと命令を守って、わたしの道を歩むなら、あなたの日を長くしよう。』」
前にも触れましたが、基準はダビデです。これは人間の基準であって、それほど高いものではありません。でも、率直に言って、その基準に達することのできた王たちは、そんなに多くはありません。

（Ⅰ列王記3：15）「ソロモンが目をさますと、なんと、それは夢であった。そこで、彼はエルサレムに行き、主の契約の箱の前に立って、全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえをささげ、すべての家来たちを招いて祝宴を開いた。」
全焼のいけにえと和解のいけにえは、主イエス・キリストを指し示しています。全焼のいけにえは、主がどんな方であるかを語ります。和解のいけにえは、主が十字架でご自分の血を流して和解を成り立たせてくださったという事実を語っています。主がどういう方であるかによって、主は私たちを神さまとの正しい関係に入れてくださることができるのです。主が血を流されたことによって、私たちの罪は取り除かれるのです。
　この章の終わりの部分には、ソロモンの知恵の実証が書かれています。彼は本物の問題に、賢い解決を出します。ふたりの女性がいました。彼女たちは娼婦でした。彼女たちと一緒に、ひとりの赤ん坊がいました。どちらもそれが自分の赤ん坊だと主張しました。彼女たちは、その問題をソロモンのところに持って来ました。あなたなら、どのように問題を解決しますか？どうやってどちらが本当の母親か、見分けますか？今日なら、どちらが母親か分かるための何か科学的な方法を遂行するのでしょうが、ソロモンにはそのような頼みの綱はありませんでした。ソロモンは女性たちに言いました。
「お前たちふたりともが赤ん坊は自分の子だと主張しているのだから、赤ん坊を半分に切って、お前たち両方ともが半分ずつを取るがいい。」
本当の母親ではないほう、つまりその子に対する愛情もなく、明らかに本当の母親に恨みをもっているほうが答えました。
「どうぞ、その子を半分に切ってください。」
ところが、本当の母親のほうは言いました。
「いえいえ。そんなことはしないでください。彼女にこの子を与えてください。」
ソロモンは、子どもの命を救うために進んで子どもを諦めようとしたほうが本当の母親であると知っていました。

（Ⅰ列王記3：28）「イスラエル人はみな、王が下したさばきを聞いて、王を恐れた。神の知恵が彼のうちにあって、さばきをするのを見たからである。」
これは、ソロモンが統治していた間に彼がくだした、多くの賢い決定のたったひとつにすぎません。

ソロモンの11人の高官

4章で、ソロモンは王国に全盛期をもたらします。彼の王国の特徴は、平和と繁栄でした。私たちも平和を持ちたいと思いませんか？ダビデが戦いの人だったのに対し、ソロモンは平和の君と呼ぶことができると思います。でも、ソロモンと王国の人々が楽しむことのできた平和は、戦いの人、ダビデによってもたらされたものでした。

これには、霊的な適用があります。私たちは、神さまが罪を赦してくださるのは、神さまが感傷的だからだと感じることを好みます。神さまはそんな低い次元で罪を赦されるのではありません。戦いが行われ、大きな犠牲が払われたのです。私たちが罪の赦しを受けられるように、血が流されたのです。主イエス・キリストはご自分の十字架の血によって、和解を成立させてくださったのです。主の血を通よりほかには、私たちは和解することはできないのです。

（Ⅰ列王記4：1－6）「こうして、ソロモン王は全イスラエルの王となった。彼の高官たちは次のとおり。ツァドクの子アザルヤは祭司。シシャの子らエリホレフとアヒヤは書記。アヒルデの子ヨシャパテは参議。エホヤダの子ベナヤは軍団長。ツァドクとエブヤタルは祭司。ナタンの子アザルヤは政務長官。ナタンの子ザブデは祭司で、王の友。アヒシャルは宮内長官。アブダの子アドニラムは役務長官。」
この章の最初の数節に、ソロモンの高官たちのリストがあげられています。このうちの何人かは、見たところダビデの息子たちの息子たち、つまりソロモンの甥たちであったことを意味します。5節にアザルヤが出てきます。この人は、ダビデの息子のナタンの子であるか、または預言者ナタンの息子であるかのどちらかです。

ソロモンの12人の守護

（Ⅰ列王記4：7）「ソロモンは、イスラエルの全土に十二人の守護を置いた。彼らは王とその一族に食糧を納めていた。すなわち、一年に一か月間、おのおの食糧を納めていた。」
ソロモンには12人の守護たちがいました。ひとりひとりがイスラエルのひとつの部族から出ていました。彼らは王と王の家全体の必要に備える責任がありました。これがソロモンの課税のやり方でした。

王国の偉大さ

（Ⅰ列王記4：20－21）「ユダとイスラエルの人口は、海辺の砂のように多くなり、彼らは飲み食いして楽しんでいた。ソロモンは、大河からペリシテ人の地、さらには、エジプトの国境に至るすべての王国を支配した。これらの王国は、ソロモンの一生の間みつぎものを持って来て、彼に仕えた。」
偉大な繁栄と平和のときでした。戦いは終わったのです。すべての人は十分なものを持っていました。そしてこれは、この地にやがて来る王国、千年王国のほんのちょっとした予示であり、予告編でした。

（Ⅰ列王記4：25）「ユダとイスラエルは、ソロモンの治世中、ダンからベエル・シェバまで、みな、おのおの自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下で安心して住むことができた。」
ここにはいくつか、注目するべきことがあります。このときは、今日のこの世にはない、安心と安全のときでした。（今日の世は次のみことばのようです。）

（イザヤ57：21）「『悪者どもには平安がない』と私の神は仰せられる。」

でも、平和の君がこの地上に来られるときには、平和がやって来ます。ソロモンの時代には、みな、おのおの自分のぶどうの木や、いちじくの木の下に住んでいました。ひとりの人は大邸宅に住んでいて、もうひとりはあばらやに住んでいる、ということではありません。 おのおのがぶどうの木といちじくの木を持っていたのです。つまり、おのおのが自分自身の地所に、快適に住んでいたということです。ダンからベエル・シェバまで、すなわち北の境界線から南の境界線まで、ソロモンの時代のあいだずっとそのようでした。

（Ⅰ列王記4：26）「ソロモンは戦車用の馬のための馬屋四万、騎兵一万二千を持っていた。」
この節に注目してください。馬は戦いのための動物であり、神さまは馬を多く持つことを禁じられました。神さまは王が馬や妻を多く持ってはならないという明確な法律を与えられました。

（申命記17：16）「王は、自分のために決して馬を多くふやしてはならない。馬をふやすためだといって民をエジプトに帰らせてはならない。『二度とこの道を帰ってはならない』と【主】はあなたがたに言われた。」

ソロモンは馬も妻も増やしました。彼はイスラエルの国中に馬屋を持っていました。私はメギドの遺跡を訪れました。そこは、エスドラエロンの谷を見下ろす土手の上で、終わりの日に最終的に大きな問題が解決する、アルマゲドンの戦いが起こると私たちが信じている場所です。ついでながら、そこは絶景です。でも、私に強い印象を与えたのは、ソロモンの馬屋、馬房、そして馬たちがそこから食べた飼い葉おけでした。このような馬屋は、最低でも450頭の馬を収容できました。II 歴代誌9：25には、彼は馬のために4000の馬屋をもっていたと書かれています！（II 歴代誌9：25参照）

（II 歴代誌9：25）「ソロモンは四千の馬屋と戦車、および騎兵一万二千を持っていた。彼はこれらを戦車の町々に配置し、またエルサレムの王のもとにも置いた。」

ソロモンは神さまの知恵とは反対に、まさに多くの馬を増やしました。

ソロモンの偉大な知恵と名声

さて、ソロモンの知恵のことが書かれています。

（I 列王記4：29－30）「神は、ソロモンに非常に豊かな知恵と英知と、海辺の砂浜のように広い心とを与えられた。それでソロモンの知恵は、東のすべての人々の知恵と、エジプト人のすべての知恵とにまさっていた。」
東は、あの博士たちの国でした。

（I 列王記4：31）「 彼は、すべての人、すなわち、エズラフ人エタンや、ヘマンや、カルコルや、マホルの子ダルダよりも知恵があった。それで、彼の名声は周辺のすべての国々に広がった。」
4人の、傑出した知恵者たちの名前がこの節にあげられています。

（I 列王記4：32－33）「彼は三千の箴言を語り、彼の歌は一千五首もあった。彼はレバノンの杉の木から、石垣に生えるヒソプに至るまでの草木について語り、獣や鳥やはうものや魚についても語った。」
ソロモンは三千の箴言を語ったと書かれています。聖書の中には、数百だけしか記録されていません。彼の歌は、一千五首もありました。本当に彼はソングライターでした。私たちに与えられているのは彼の歌のひとつ、雅歌だけです。
ソロモンは樹木学者でした。
「彼はレバノンの杉の木から、石垣に生えるヒソプに至るまでの草木について語り」ました。
ヒソプは石に生える粗末で小さな植物です。
「獣や鳥やはうものや魚についても語った。」
ソロモンは動物学者でもあり、鳥のことを語ったので、鳥類学者でもあり、はうもの、つまり虫のことも語りましたから、昆虫学者でもあり、魚のことも語る魚類学者でもありました。彼はこれらのことについて語りました。なぜなら、彼はこれらのことを研究し、これら特別な領域の権威だったからです。これは、確かに科学の始めです。ソロモンはこれらのことに興味を持っていました。

（I 列王記4：34）「ソロモンの知恵を聞くために、すべての国の人々や、彼の知恵のうわさを聞いた国のすべての王たちがやって来た。」
世界中で、ソロモンの知恵は評判になりました。そして多くの人々が彼の言うことを聞きにきました。箴言の中に、彼の書いた格言のいくつかがあります。前にも言いましたが、これらの箴言は、これから大人の生活に入ろうとするすべての若者に、とても大きな助けになります。若い男性の生活とビジネスを導くことのできる特定の箴言もあります。ごらんのように、神さまは私たちにとって、とても実際的です。神さまは、あなたや私が歩む商業の中心地や、また、私たちが入って行くその土地の路地や、社交的な集まりの場所で、まっすぐにものごとの核心に触れられます。箴言の中に、ある種の人生の原則が私たちに与えられています。私は、若者がソロモンの箴言に従っていればクリスチャンになることができると言っているのではありません。でも、いずれにしても、箴言の中には、若者の人生に関するすばらしい導きがあるのは確かです。